夕刊
磐城新聞
一月七日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八。五五六五番

天氣豫報　小名濱測候所觀測
今晩は北西の風晴小雨模樣
明日は北西の風晴

# 手紙（上）

五十嵐雄之

□去年の三昧會の寄せ書に私は思ひついたまゝに『文は人也』の一句を書いたがこの文が『ふみ』と讀み手紙と解釋しても樗牛の精神には少しも戾らないだらうと思ふ。私の中學で當時官僚にその人ありといはれた仲小路康氏が氏の郷里備後が生んだ賴山陽の爲人をその書簡を通じて講演して純眞なる學生達に多大の感銘を與へたのをいまだに記憶してゐる。わが福島を生誕の地とした偉大なる科學者野口英世の書簡集を讀んでもその思想と行動とが如實に展開され博士が偉大なる科學者である半面實に香氣高き詩人であり思索深き哲人である床しさが閃いて其風丰を想ひ見らるゝ氣持がする。

□この間の新聞で、三十年の念願叶つて遙々永遠の愛人有島武郎の墓を訪ねて來朝したティルディヘッタが盡きぬ名殘りを惜しみ乍ら又悄然と一人淋しくシヤフハツゼンの古都に歸るべく乘船したといふ記事を讀んでその心境を推察し萬感交々胸に湧いておのづと眼頭の熱くなるのを禁じ得なかつたがティルディの心にかくも深い感銘と追慕とを刻みつけた武郎の面影それは三十年前月明のチユーリツと湖畔逍遙の時又その夜の驛頭別離の際武郎の示した純情によることも勿論ではあるが相別れた其翌日ミユーンヘンよりの葉書を鐵一信と一爾後十五ヶ年武郎が生を絶つまでの長きに亘り綴られた心からの文通がかうした不壞の愛を築いたのだと私には信せられるティルディの手記にもあるやうにこの六十通の手紙だ彼女にとつて何にも優る貴い寶で片時も手離すことが出來ない、そして自分の死後には武郎の子供に與へたいと思ふといつてゐる、彼女にとつては此等の手紙はまことに武郎の不滅の像、不死の靈ではあるまいか。

1月8日

△ガリレオ歿（一六四二）△始めて觀兵式を行ふ（明治五）△外國爲替管理强化に關する大藏省令公布（昭和一二）

## 便り

武田勇治郎

山に夕陽が
赤い
紅葉散る
崖下の水車場
冬がそこまで
來たと
ちゞちやが
雪圍ひして話す
父うさの便り
讀むたび
段々畑で
俺をよんでる
『母さの言ふこと
きいてな』
笑つて出征た
父うさよ

## 講談

賀鶯君任官輜重兵少尉

戰雲告急待高人
今日果然官命新
國家前途多事際
丹衷只答管楓宸

## 悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

(83)　林杢兵衛作　金子士郎畫

人か魔か（五）

『いや、多分あるまいたア思ふんだが、矢ッ張り念のため訊いて置かねえとなア……』

『私が差出がましい事を申すやうで御座いますが、今度の事件は、どうも辻强盜の仕業としか思はれませんが、如何で御座いませう。と申すのは、娘はかんざしを差してゐましたので御座います。ところが御座いませんし、また紙入れも見當りません』

『それやあの騷ぎの中で、何處かに取落したんぢやねえか、で。そのかんざしてえなア、どんなものだつたなア』

茂十は、お綺の一言にまた別の興味を持つて來たが、强いて素知らぬ態を裝つてゐる

『かんかんざしは金の平打で、牡丹に蝶の浮彫が御座います』

『牡丹に蝶のなア。』とに角覺ねておかうよ』

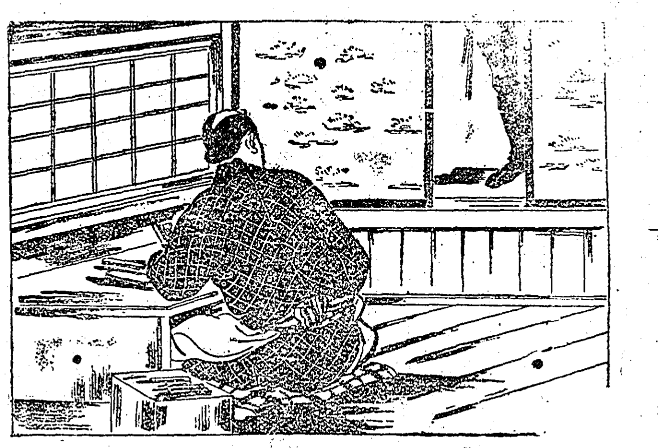
輕く扱つた中に、何か大きな思案を秘めて近江屋を出た茂十

その翌朝

茂十はいゝば下谷坂本近江屋の甥梅松の家を訪ねた

『御免よ』

表戸を開けて聲をかける



『はい』と、梅松らしい聲で返辭があつたが、一向出て來ない

『御免よ』

『誰方！　どうぞお上り』

返辭は細工場の中でしてゐるが、相も變らず出て來る樣子が無い

茂十は少からず小癪にさへたやうだ

『上つてもいんですかい』

『かいさアどうぞ、其處の障子を開けて這入つて下さい。今仕事中でひどく取り散らしてありますが。そつちさへ承知なら構ひません』

たかが細工風情で生意氣に仕事中だからと云つて、迎へもしないその高慢ちきな動作が、益々茂十の感情を惡くした

『俺は矢の倉茂十てえ者だがなア』

矢庭に襖を開けるなり茂十は、腰の十手を拔いて細工場の梅松を見下した

『えゝツ、これは親方で御座いましたか。どうも御無禮を致しました。濟みません、私はまた御注文のお客樣かと思つて居りましたので……』

それでもまだ座つたまゝの梅松だが、首だけは振り向けて叮嚀にお辭儀をした

茂十はその後ろへ腰を踞かませて

『一寸訊きてえことがあつて來たんだが、お前は昨日近江屋の娘お藤が殺されたことを知つてるだらうなア……』

『はい、直ぐ知らせを受けましたから、よく存じて居ります』

『それにどうしてお前は見舞にも行かねんだ？』

『今日、これから出掛けて見やうと思つてゐた處で御座います』

『昨日知らせを受けてゐながら、今まで何をしてゐたんだ？　直ぐ行くのが當り前ぢやねえか』

『それがその、丁度昨日一杯に仕上げなければならない急ぎの注文がございましたので……』

『お前は、お藤とは從兄妹同志で、幼ねえ時分から遂此頃まで近江屋で暮したてえことだが本當か？』

『左樣で御座います』

『お藤が、信濃屋の芳之助と祝言することも知つてたらうなア？』

『承知して居ります』

『そのお前とお藤とを一緒にするてえ話もあつたてえぢやねえか？』

『そんな話もありましたが色々な事情がありまして。まア止めになつたと云ふ譯で御座います』

『さうして、今度信濃屋の伜と祝言すると聞いた時お前はどんな氣がした』

平市紺屋町一一
上原家政婦會
會主産婆　上原通子
電話二二一番
産婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

和洋家具　建具
椅子　テーブル
其他裝飾品一般
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙　各學校　御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歳以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日も四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキ、メの早い
靈効散
胃腸藥
を御試し下さい
胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方劑調劑所
阿康藥局
電話四四番
振替口座東京三〇〇六五番
定價　一八日分　五十錢　廿日分　壹圓
御子樣方には飮み易い小兒靈効散があります。

食事
喫茶
酒場を
兼ねた
レストラン
サロン
平田町
電三五二

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
福島縣平市支店一丁目（電話六十一番）
關彰商店平支店
本店　茨城縣下館町　電話五五、三三九番
支店　茨城縣土浦町田宿　電話六五三番
茨城縣久慈町　電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前　（電大津一四七番）
福島縣四倉驛前　（電平潟五四番）
福島縣小名濱町　電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所　電話八二四番）

産科
婦人科專門
平市南町五二
根本醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（手術室完備）
（入院隨時）

精神病科
脳脊髓病科
神經病科
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
院長醫學士　金森五郎
入院隨時

近眼老眼亂視眼用
メガネ澤山取揃つて御座居ます。
是非一度御來店下さい
各眼科處方調製
正確と勉强の店
玉屋眼鏡店
平市二丁目

ミシン販賣
◎新品家庭用ミシン各種◎職業用ミシン各種◎中古解体品ミシン各種◎部分品附屬品◎ミシン修繕及び新古交換◎ミシン金融賃貸◎
◇カタログミシン定價表進呈ス◇
平市田町
シンガーミシン會社支店
◎外務社員◎集金人◎小店員採用◎

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番　本店二七番）
味噌醬油
たひら正宗
鰹節　食料品
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

磐城の御みやげ品
名物
靈峰羊羹（みやま）（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同　七濱……のり羊羹
同　豊間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元
小川郷驛前
平屋賣店

カメラ材料
藥品百貨
平電話3番
西村屋藥局

皮膚科
泌尿器科
性病科
專門
診療時間　午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
電話六九一
醫學博士　江尻伊三郎
入院隨意

旅舍
大幸館
東京上野驛前
下谷郵便局橫通角
電話下谷園六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人　比佐棟雄

晝　夜
診　療
外科一般　內臟外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
〔血液檢査每日〕平市新川町〔電四六四〕
イツデモ入院デキマス。
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保

ニツポン・魚は凍魚
日米冷藏　特約
平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛　甘鯛
エビ　マナ鰹
白魚　帆立貝
ワカサギ　ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

# 年賀狀の激減に對し 通常郵便物は一割增

## 平局に現れた明暗二色

非常時正月の緊張は國民大衆を擧げて實踐した所謂勅約閣議の年賀狀交換に著しい反映を見せた。試みに平局の取扱ひ數に就て見ると

（自十二月二十日至二十九日）

| | 本年 | 前年 | 減率 |
|---|---|---|---|
| | 千通 | | 分 |
| 局受 | 九五 | 四二一 | 七六 |
| 繼越 | 一四八 | 七〇四 | 七九 |

（自十二月三十日 一月五日）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 局受 | 一一七 | 二〇八 | 四四 |
| 繼越 | 五九一 | 一、〇九九 | 四五 |

で一昨五日迄の年賀郵便物配達數十八萬八千四百八十三通は前年の五十三萬三千九百六十七通に比し實に六割五分の一大激減となつて居るが一般通常郵便物は反對に昨年より約一割の增で其間澱ろに世相の活氣を物語つてゐる、因に前記表中『繼越』とは平局から濱三郡各局に送らるるものの謂である

# 懷ろが温い證據

## 師走風何處吹く貯金增加

景氣上向きの證據は單に賀狀の激減少で其間九萬と云ふ大幅の激減に逆行する一般郵便物の增加のみに止らず同局の窓口に於ける現金の動きにも明瞭にその實相が現はれてゐる。即ち去月中に於ける前年對比の數字を示すと（括弧內昨年）

爲替受二、〇八六口五二、九八四圓（一、九八四口五五、九五二圓）同拂二、二八〇口一一七、八七六圓（二、三六二口一二〇、八二二圓）

貯金受七、〇七二口一九七、八一四圓（七、一七二口一四八、八三八圓）同拂二、〇三四口一七四、四二六圓（二、一〇五口二一〇、二二七圓）

で爲替は取り立てゝ云ふ程の異動は無いが貯金に於ては預け入れ約五萬圓の增に反し拂ひ戻しが約四萬圓の

### 對滿爲替 流入激增

以上のほか外國爲替に於ても前記一般的傾向と併行し一昨年十二月の到着三十五口千四百六十圓に比し客臘中に一躍九十一口四千三百二十七圓に奔躍したが右は略ね滿洲關係である

### 剰餘預入 金增加

平局に於ける年末の金まはりは前記諸表に見る如く極めて活潑で之が爲め毎日の收支から剰餘を生じ銀行に預入した額が十一年十二月の二十二口三十一萬二千圓から二十五口四十萬七千圓に增加した

# 婚姻屆が增加

## 昨年中の戸籍統計

平市昨年中の人口動態（舊平窪も併合）統計が出來上つた、これによる主なるものを見ると

出生　一、〇五〇（昨年一、〇三四）死亡　五四一（同五一八）婚姻　四五一（同三八六）離婚　二五（同二二）

結局昨年中に人口は五百九名增、死亡は前年に較べて二十三名多く婚姻屆の六十五組增は事變の反映である

係員も『戰爭騷ぎで戸籍事務は一般に忙しかつたです……』と統計表を前にして語つてゐた

### 瞼の父よ？ 仙人に

なつた親爺さんの話―茨城縣日立町宮田仲町日立製作所職工義治さんの實父同縣久慈郡袋田村生れ見代寛治（四九）さんがそれで、同人は今から二十年前、永患ひをしてゐるうち附近民からは『不治の病ひだ〈』と云はれるのを苦にしてブラリ家出したまゝ音信を絶ち以來各地で山林生活を續けて髯ボウ〈の山男となつて此程茨城縣多賀郡地內の縣境山林をブラ〈してゐたのを見たものがあり、山傳ひに本郡內に入り込んだらしいからと七日義治さんから平署に『瞼の父親』の捜索方を願ひ出た

### 豫算編成委員會

平市では豫算編成につき左記日割で各種委員會を開く

一月十六日傳染病豫防　十七日水道　十八日土木　十九日學務　二十日警備

# 豫め死を覺悟す

## 明後九日の市葬を前に 古泉大尉の遺書發表

古泉大尉の市葬は既報の如く明後九日の日曜をトし午後一時から第三小學校に於て（齋主）青沼市長（委員長）野崎議長（副委員長）伊藤助役、蓮沼副議長（委員）各市議により執行さるゝが遺骨、遺髮と共に兩親に宛てた遺書が届けられ一入死を見ること歸するが如き武人の心境を感歎せしめてゐる

（原文）

一、日本男兒の本懷として喜んで死にます、御兩親樣も家門の譽として喜んで下さい、決して御悲歎なさらぬ樣御願ひします

二、くれ〈も身体に御留意され御健康長壽の程御祈りします

三、私の死後御兩親樣の希望の綱となり頼みとなる何ものも殘らぬ事のみ殘念です、此點御詫び申上げます

（九月十三日）

御兩親樣

### 斷水

市內四軒町工事のため左記町區は七日夜八時から明朝二時迄斷水　四軒町、北目町の一部

# 軍國の春を彩つて……

## 新兵さんの入營近づく

非常時國軍の中堅たるべき新兵さん達はこの十日佐藤部隊に入營するので同日午前七時半から八時半まで若松市公會堂で縣、聯隊區司令部共同主催の壯丁歡送會が擧行される

身体檢査に合格した壯丁はいよ〈國家の干城として星一つの軍服を支給され當日は班長から種々指導を受け慣れないベッドに兵營の第一夜を送るが非常時下の新兵さん達は直ちに猛烈な訓練に入るのである、入營前夜の平出身兵の宿舍は榮町三丁目鶴屋方、郡部出身兵は桂林寺町豊島屋と決つた

### 鼠賊二件

赤井村藤島炭礦助手渡邊某（三二）は昨年十一月下旬同僚戸田正美所有の腕時計（十四圓）を盜み又草野村下神谷農富田榮（三六）は去る大晦日の夜神谷村中神谷飲食店佐藤幸平さん方でモツキリ一杯をひつかけ家人の隙を見て下駄、茶一袋を失敬、何れも平署へ

# 陣中を聽く

（58）

# 平市民代表の慰問に 感激して一層奮勵

## 磐女敎諭 永島少尉（通信）

――時下嚴寒の砌益々御多奉祥慶賀候陳者今般市民代表の御慰問被下厚く〈御禮申上候

扨て小生〇〇月〇〇日〇支上陸以來〇〇〇〇、〇〇等を經て〇月〇日夜半〇隊に命下り翌〇日〇〇を〇〇輛の自動車に便乘出發二十二里程南下仕り〇〇鎭の〇〇〇飛行場の警備勤務其間數回の襲擊有之候も完全にこれを擊退任務を果し〇月〇日午前九時更に同地より南下の命令相下り同日午後零時三十分〇〇輛の自動車に便乘出發任地途中二回程敵兵の襲擊を受け數分間にて之れを擊退午後七時任地〇〇〇に到着仕り同夜敵敗殘兵約三百名吾が〇隊の警備地〇〇〇を襲擊吾が〇隊交戰約一時間にて之れを擊退其後五十日間〇〇〇の警備勤務其の長日時に於ける吾が〇隊就中吾が〇隊の活動狀況の大体を申上可く、部落掃蕩自動車襲擊の急援、敵密偵の掃蕩等數十回に亘り實施仕り候ところ〇〇月〇日たまたま敵兵敷設中の地雷に觸れ（略）誠に殘念この上も無き次第に御座候〇月〇〇警備地〇〇〇に移動同地は山道五里海拔二千七百三十米敵トーチカ陣地中に堅固な敵大軍は我が第一線〇隊に依り大部分擊退され現在は敵兵二百名にて只々寒氣甚だ強く日中零下二十五度夜中同三十五、六度積雪二十糎斯る〇支〇〇山上に於て吾が〇隊目下軍旗のもとにいよ〈意氣百倍以て警備任務遂行に努力致し居り候間何卒御安神願度先づは御禮旁々近況迄斯くの如くに御座候、何等かの御取計ひを願ひ市民の皆々樣に御傳へ願ひますれば小生の幸ひと存じます次第で御座います、尙當市出身大久保善八郎君は小生の〇隊で極めて勤直に活動致し居りますからこれ亦皆樣によろしく御傳へ下さい

（十二月二十日）

# 年賀狀から

## 高久晩霞

東京の新聞記事などを眞に受けてゲロリとして居たらイヤ來るは來るは例年と大差なし――なので今更吃驚仰天、お世辭に變なものを書きます

新年有感――なんて塵爪らしく

元旦のわが心なは國の爲遠く戰ふ人をひた思ふ

偶々當地の天候

朝雲の午後を晴れたる元日は、年の運命を豫め言ふか

イヤナニ氣取つたわけでもないのですが、何せ穀兄を失つて半喪中（？）の積りで何れへも御無禮して居りましたが、これから賑やかに御願ひします。昨夜N、N兩君木兒莊御賁臨―ゴキゲン―チドリアシー

○

鵜沼孝昌

豫て南京空爆にて武勳を表はし候、內郷村出身菅波政治海軍中尉は本日一寸歸省、明三日午後二時は御厭（？）菅波敏緒氏實兄宅にて座談會相催し候に付御社員御出席になりませんか、小生は午後一時頃行きます、何なら御同道してもよし

○

田町　竹の葉

追羽根に墨つけらるる酒の醉

重き羽子板抱へて舞子はゝ笑めり

たまさかの風追羽をうばひ行く

# 平商新築は明年度確實

# 「一と足」遲れて第五小學校

## 平市の新事業計劃進む

新興平市の新事業として新川南田圓に一萬八千坪の宏大な敗地をとつゝ平商業學校並に第五小學校建築豫定地は目下西方九千坪の埋立を急いでゐる、商業學校は現校舍の腐朽甚しい所ろから十二年度にその建築費八萬圓を計上したが種々の事情から遂に實現を見なかつたとは云へ商友會側からの數次に亘る陳情もあるので前記九千坪を敗地として更に十三年度新豫算に計上されることは既定の事實であらう、一方第五小學校はこれによつて十四年度に延びるらしくその建築費は總二階建として大体五萬圓位は要するであらうと云はれて居り、兩校の現出に伴ひ同地附近今後の發展は一般から少からず刮目されてゐる

尙舊平窪方面に於ける學童の增加により第四小學校（舊平窪校）は既報の如く講堂、校舍二棟の增築によつてこれが收容難を緩和してゐる

# 一寸惱みの敷地

## 電柱移轉問題未だし

前記商業學校並に第五小學校敷地を通る磐炭送電柱の移轉問題は同電線が校舍建築豫定個所にかゝる關係から平市としては急速これが解決を目指して再三磐炭側に交渉を續けて來たが移轉費の負擔關係で未だ交渉が成立して居らず、既報の如く電線引上げによつてこれを解決せんとの意見も出たが將來を考慮して更に研究の餘地あるので既報の如く十日午前十時から敗地調査委員會を開くに至つたものである

電柱移轉の未解決によつて東方第五小學校敷地變更（前記平商西方く隣接）の聲もあり又電線の迂廻說も話題に上つてゐるといふ、何れ近く適當な解決策が見出されるものと云はれてゐる

# 赤井村長後任問題

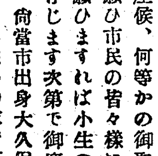
## 菊地氏乘り出す

赤井村長の後任問題は豬狩忠八、芳賀政雄、田久彌七、草野三郎の四氏が話題に上つてゐながら種々の關係でいつ決定するやも知れぬ情勢にあるので此程前福島炭礦所長菊地德太郎氏が解決に乘り出し、この場合人物本位に縣議草野三郎氏を推すが村政のためにも妥當であらうと去る五日村議一同を招き協議會の形式によつて話を進めたが出席議員七名（定員十七名）何れも賛意を表したので近く村會で正式決定すべく奔走中である

### 本馬つね媼　高久村

高久村會議員、石城醬油釀造組合評議員、米穀自治管理總代員本馬長之助氏母堂つね媼は近來兎角健康勝れなかつたが昨六日午前十時半八十三歳の高齢を以て永眠明八日午後二時出棺神葬を執行するが遺志により學校、軍人分會、消防組、修德院修德團、青年分團、馬場中組合等に夫々金一封を寄附した

舊十二月七日　土曜　新一月八日　庚子　赤口　閉　氏宿




諸判定總本部　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

一白　慾に心を奪はるゝときは虻蜂取らずとなる二黒　出す事には無事なれど取入れ事に支障多し三碧　人の誘ひに乘らぬ樣尻を落付けて努力せよ四緑　心靜かに萬全のさくに向ひて進めば吉日なり五黃　事のみ大にして實形の見留め難き日萬法螺六白　盛運の如く見へても入の割に出ること多し七赤　波瀾にして根限く働けば先づ吉日たるべし八白　時運吉と雖も不圖したることやまの入込むべし九紫　和順を基としさう急ならざる無事企業は凶


簡易ノ金融　磐城無盡　趣味ノ貯蓄　出張所縣內各町

東西會社の新商品　良い電球は眼の護り　トウランプ　國產　石鹸　齒刷子　齒磨　連鎖店にあり

磐城名物　靈峰羊羹　小川郷驛前　平屋賣店

最新式穴の傷まぬ洋式ドンコ帳簿　一圓、一圓八十錢　二圓五十錢
書く手間が要らぬデリカ切抜き住所錄（人名簿）　二〇〇名、三〇〇名　五〇〇名、一千名、各種
魁文堂　電話313番

おでん　一平（イッパイ）　電話二六三番

耳鼻咽喉科專門　醫學士　鈴木正男　平市田町（電話五八番）藤田女學校前
齒科口腔外科　日本齒科醫學士　鈴木政　內郷村高坂磐炭病院前
『入院のお需めに應ず』（看護婦及ビ見習看護婦募集）
鈴木醫院

平市二丁目　あまこ自動車商會　電話六四〇番

外科（內臟外科及一般外科）X光線科、花柳病　內科、小兒科　岩手醫學士　萬波勳　院長　前田清美
（自炊ノ便アリ　病室完備）　前田醫院　田町本町電話一二四番

池ノ坊　生花教授　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館　須藤まつの

夜間　診療
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科　專門
松村胃腸性病科醫院（平市南町電話一〇七番）
（見習看護婦募集）

醫學士　吉田久雄　吉田眼科醫院　平市紺屋町　電話六八番


母つね儀昨六日午前十時半八十三歳の高齢を以て永眠致し候ニ付此段御通知申上候
追て明八日午後二時出棺修德院ニ於て神葬執行可致候
一月七日
男　本馬長之助
親戚　本馬佐源次
總代　本馬武